

# 卒業生 MESSAGE

## 看護師

福岡赤十字病院 外科病棟

池田 尚大さん

2005年卒業1期生 広島県・廿日市高等学校出身

逕碧会(日本赤十字九州国際看護大学同窓会)会長

2016年4月  
熊本、大分地震後の  
現場で活動する様子



小児科、循環器集中治療室、手術室の経験を経て、現在は外科病棟に勤務しています。

日々変化、進歩する医療と看護の現場で看護師として10年以上経った今でも勉強の日々です。しかし、患者家族とともに困難を乗り越え、心温まる言葉や笑顔を頂くことは、看護師として働く最大の魅力であり、達成感と充実感、働く活力となっています。

複雑な医療社会となっている現在、より高い専門的な知識、技術を習得することは専門職として必須です。自身のもつ知識、技術、感性、経験を駆使して、患者家族とともに疾患と向き合い希望する生活を支援していくことが、看護師として求められています。医療施設から地域、自宅へと医療の現場が拡大している現代において、医師やコメディカルと連携を図り患者中心の医療を提供するため、看護師が医療をマネジメントし協働していかなければなりません。その中で、高いコミュニケーション能力やマネジメント能力も必要です。看護管理者としての役割も少しずつ担うようになり、そのような視点も持ち研鑽しながら医療チームの一員として看護を実践しています。



## 助教

日本赤十字九州国際看護大学 国際看護領域

宇都宮 真由子助教

2006年卒業2期生 佐賀県・致遠館高等学校出身

本学2期生として卒業後、武蔵野赤十字病院救命救急センターICUで看護師として働き、その後青年海外協力隊で、西アフリカのセネガルで看護師隊員として活動に従事しました。セネガルでは現地の診療所にて医療サービスの質の向上・改善(SS、業務改善など)の活動を行い、地元の方と生活しながら、「幸せとは何か」「看護とは何か」を見つ

め合う日々でした。学生時代の夢であった「救急で働くこと」と「海外で看護をすること」を達成し、セネガルでの経験をもとに「看護人材を正しく育てることで多くの人々の健康を守ることにつながるということ」を実感し、教育分野に興味を持ち、新たな夢の「人材を育成すること」に辿り着きました。教員として本学に戻り、大学院で看護教育を学び、私生活でも子供を育てることで、更に「人を育てること」の重要性を見出している日々です。大学で学んだことをベースとし、今も学生と共に成長し続けています。



## 保健師

春日市役所 子育て支援課 大和 恵さん(旧姓:吉田) 2018年卒業

### この街に住んでよかったと思ってもらえるように

私は大学卒業後すぐに春日市へ入庁し、子育て支援課で母子保健を担当しています。臨床経験無しで保健師として働くことに不安もありましたが、職場の先輩方のサポートはもちろん、大学時代の様々な経験が大きな支えになっています。地域に根差した活動も多い本学での4年間は、看護の基本は人々の暮らしと共にあることを学べる濃密な時間となりました。

現在担当する母子保健分野では対象者の家族背景や経済状況など暮らしに密接した問題も多く、暮らしに寄り添った支援が必要となります。今後も対象者と共に、悩み、考えながらより良い日々を送るための支援ができる保健師を目指し成長していきたいと思っています。



## 助産師

福岡赤十字病院 森 明日香さん 2018年卒業/2020年大学院修了

### 女性の一生を支える助産師に

私は大学卒業後、助産教育コースに進学しました。大学院では、年齢や経歴の異なる同級生の様々な考えに触れ多くの刺激を受けながら、プレゼンや討議を通して自身の思考過程を言語化し発信する能力を養うことができました。

現在、福岡赤十字病院の産婦人科病棟に勤務し、正常からハイリスクなお産にかかわらせていただいています。また、婦人科病棟も併設していることから妊娠出産目的以外の患者さんにもかわりケアを行っています。今後も自己研鑽に努め女性の一生を支えることができる助産師に成長していきたいと思っています。



## 看護師

福岡赤十字病院 濱田 佳奈さん 2018年卒業

### 患者さんがその人らしく過ごせるように私たちができる事

私は福岡赤十字病院の血液腫瘍内科病棟で勤務しています。白血病をはじめとした様々な血液疾患を有する患者さんとの関わりを通して、長期的に疾患と向き合いながら治療する患者さんを全人的に捉えていく重要性を日々感じています。

大学4年間は講義に加え演習や実習、日々のレポートなど、臨床現場において基礎となるアセスメント力を学ぶことができました。今後も患者さんのニーズを把握し個別性のある看護を行っていきたくと思っています。

